

## はばたくなら ①②

幼児教育と小学校教育の円滑な接続の為に  
～つながる関係づくりを目指して～

## 取組について

■ 当園は全園児で36人という少人数であり、気心の知れた限られた友達関係の中で生活する時間が多い。就学後は他園から入学してくる多くの様々な子どもたちとの生活が展開されることとなるため、少しでも人との関わりを広げ、安心して小学校生活を迎えられるようにと願って近隣の「あわ保育園」との交流を積み重ねている。（3歳児は近くの公園で一緒に遊ぶ。4・5歳児は互いの園を訪問したり公園で遊んだりして交流する。さらに5歳児は幼稚園・保育園・小学校と一緒に交流する。）

■ 令和4年度より「斑鳩町アプローチ・スタートプログラムの研究推進」が発足され幼稚園・保育園・私立こども園・小学校・教育委員会から代表者が参加し、幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿を踏まえ、「生活する力」「人と関わる力」「学ぶ力」の3つ力を設定し、幼保こ小連携のカリキュラムの作成、実施にとりくんでいる。年1回集まって意見交流、実践報告などを行っているが、実施していく中での問題点、課題などについて踏み込んだ話し合いができていないのが現状である。

## この取組を通して・・・

○小学校、保育園と年度当初に年間の計画を決めることで、スムーズに見通しをもって交流することができた。年度初めは緊張する姿が多く、自己表出ができない幼児が多かったが、回を重ねるごとに保育園の友達の名前を呼んで遊んだり、遊びについて思いを出し合ったりする姿も見られ3年間を通しての交流は子どもたちにとって必要な経験であることを感じた。また、複数回の小学校の児童との触れ合いは安心感をうみ、小学校を身近に感じ、これから始まる小学校生活を楽しみにする姿につながった。交流を1回で終わるのではなくで計画的に機会をもつことで子どもたち、保育者・教師同士の「つながる関係づくり」の第1歩となっていくのではないかとと思われる。

○しかし、交流後の振り返りはできていないのが現状であり、今後の課題である。振り返りをすることで、幼稚園、保育園、小学校の保育者・教師が、それぞれの子どもたちの育ちや課題を知り、困り感を気軽に話し合えることができ、さらに連携が深まってくると考える。そして、互いの保育・教育のねらいや目標を理解し、共有し合いながら、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムの見直しにつなげていくことが、円滑な接続につながっていくのではないかとと思う。

## 実践事例① 幼保交流を通して 4歳児6月から11月頃

- ねらい
- ・ 保育園の子どもたちと交流し関わりを深め、一緒に遊ぶことを楽しむ。
  - ・ 保育者同士が交流し他園の保育に触れ、他園の幼児の様子を知る。

年  
間  
の  
流  
れ

- 4月 保育園の先生と年3回の交流日程、内容を話し合う。
- 6月 第1回 幼稚園で交流・じゃんけん列車（遊戯室） 戸外遊び
- 11月 第2回 保育園で交流・パラバルーン ダンス 戸外遊び
- 2月 第3回 上宮遺跡公園で交流

### 6月 じゃんけん列車

◎10の姿で捉えた子供の成長

年少時に一度一緒に遊んでいるが、年中になって初めての交流で、自己紹介をしてからじゃんけん列車をしたが、緊張してなかなか名前が言えない姿があった。好きな遊びをする時間になっても、近くでは遊ぶものの、自分から関わったり会話をする姿はほとんどなかった。

◎保育園の友達を探して名前を伝えじゃんけんをする。（社会生活との関わり など）

### 11月 保育園に行こう

1回目の交流後、今度は、保育園へ行って遊ぶことを伝えたり、保育園の友達とどんなことがしたいか話し合ったりして交流に期待がもてるようにしてきた。その中で「何して遊ぼうかな?」「保育園に知ってる子いるで」などと、楽しみにする姿があった。

見て! うんてい  
できるで!



わたしも  
できるよ!

一緒にだるまさんが  
ころんだしよか?



やろうやろう!

だるまさんがころんだ!  
動いた!! 1、2、3...



つかまる~逃げろ~♪

もっと  
遊びたかったな...



またあそぼうね!

- ◎友だちの言葉を聞き、自らやってみようとする。（自立心、言葉による伝え合い など）
- ◎ルールのある遊びを意欲的にする。（健康な心と体、道徳性・規範意識の芽生え など）
- ◎互いに別れを惜しみ、次回の交流を楽しみにする。（協同性、社会生活との関わり など）

### 【考察】

- ・ 交流に期待がもてるようにしてきたことで、2回目の方が緊張せず遊びに参加することができ、保育園の友だちの思いを聞いたり、誘い合って遊んだりする姿につながったと思われる。
- ・ 交流時に保育者間でも話す機会が増え、今後、年長での小学校との交流も見据え、共に次への活動につなげられたらと思う。

## 実践事例② 幼保小交流を通して 5歳児4月から11月頃

- ねらい
- ・ 小学校の雰囲気や様子を知り安心感をもつ。
  - ・ 小学生との交流を通して、小学校への憧れの気持ちや親近感をもつ。

年  
間  
の  
流  
れ

- 4月 幼稚園・保育園で事前に打ち合わせ会議を行い、幼保交流の内容や日程決めを行う。
- 5月 幼保小交流について年間計画の会議を行う。  
幼保交流（幼稚園にて）色水やシャボン玉、遊具で遊ぶ。
- 6月 幼保小交流（1年生と学校探検・ゲーム遊び。）  
前年度年長組担任が、1年生の授業参観を見学をする。
- 8月 「幼保こ小」連携推進会議を教育委員会も含めて行い、意見交流や実践報告などを行う。
- 10月 幼保小交流（1年生と交流。運動会練習を見学して玉入れをする。）
- 11月 幼保小交流（5年生とのゲーム遊び。）  
幼保交流（保育園にて）綱引きや秋の自然物を使っての制作遊び、遊具で遊ぶ。
- 12月 幼保小交流（2年生主催おもちゃランドに参加する。）
- 2月 小学校入学体験

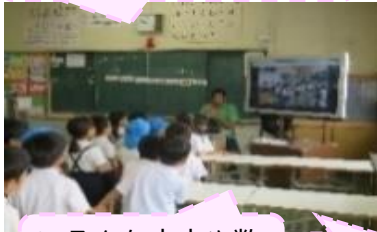
## 5月 保育園との交流

年長に進級して初めての交流で緊張する様子が見られたが、時間の経過と共に顔見知りの子を見つけ遊具に誘ったり、一緒に色水遊びをして色を見せ合い会話を楽しんだりする姿も見られた。

## 6月 1年生との交流（幼保小交流）

幼稚園・保育園・小学校が集まり、グループに分かれて1年生のお兄さんお姉さんと一緒に校内探検をした。緊張しながらもいろいろな教室を見たり、小学校の先生に出会ったりする中で小学校に興味をもっている様子があった。その後、1年生や保育園の友達とゲーム遊びをして触れ合いの時間をとることで互いに身近に感じられるようになった。

ここは1年生の部屋やで！



いろんな文字や数字が書いてあるね

小学校の体育館や校庭は広くて大きいなー！



字書けるよ

ここで遊ぶの楽しみやな♪

学校って迷路みたいで楽しいな



ここは先生の部屋です！！



ドキドキするなあ！

◎小学生に憧れをもち、校内を案内してもらい小学校に興味関心をもつ。

（自立心、社会生活との関わり など）

◎校内や教室に書いてある文字や数字などを見たり読んだりして興味関心をもつ。

（数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚 など）

### 【考察】

初めての学校探検に少し緊張気味の子もいたが、1年生に案内してもらうことで学校の雰囲気にも慣れリラックスしていく姿につながった。幼稚園に帰ってきてからは、「また行きたい！」「楽しかった」という子もいて学校生活への不安が解消されたのではないと思われる。

## 11月 5年生との交流（幼保小交流）

5年生との交流では、クラス単位に分かれて交流を行った。ゲーム遊びや幼稚園でもよく使うフラフープを使った輪っかくぐりリレーや自己紹介タイムなどを楽しんだ。

一緒にじゃんけんしよう！



自己紹介ドキドキする



勝てるように順番考えよ！

◎相手の優しさに触れ、自分からスキンシップやコミュニケーションをとろうとする。

（社会生活との関わり、豊かな感性と表現 など）

◎チームで相談して作戦を決めてルールを守って協力しながら遊ぶ。

（協同性、道徳性・規範意識の芽生え など）

◎自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりして遊びを進めていく。

（言葉による伝え合い など）

### 【考察】

交流を重ねてきたことで、学校に行くことを楽しみにする幼児が多くなった。交流後の振り返りでは「学校に行ったら勉強したい！」と発言する子や「給食美味しいかな。楽しみ！」「友達に会えたよ。」と子ども同士の会話の中にも、学校の話がでるようになり、小学校生活への期待が高まっていることを感じた。あともう少しで小学生になれることを楽しみに、自分の身のまわりのことを見通しをもって行う姿が見られる。また、日々の生活や遊びの中で時計や数字、文字への興味も高まっているように感じる。